

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)（海外学術調査）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02715

研究課題名（和文）アジア海域からユーラシア内陸部にかけての生態資源の撓乱と保全をめぐる地域動態比較

研究課題名（英文）Comparative area dynamics on the disturbance and conservation of eco-resources in Asian maritime world through inner Eurasian continent

研究代表者

山田 勇（Yamada, Isamu）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・名誉教授

研究者番号：80093334

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 32,000,000円

研究成果の概要（和文）：今回の研究では東南アジア海域世界からユーラシア大陸にかけての生態資源の劣化と保全についての現状を把握し、今後の方策を模索することであった。

4年間にわたり各地で生態資源、主として沈香、茶、牧畜、森林、観光資源について広域な調査を行った。各生態資源の利用が外圧によって変化を余儀なくされつつも、なおかつ、独自の方法を堅持していこうという姿勢が見られ、そのことが他地域ではみられない特殊性を強固にしていくいい方向に向いているという現実であった。また東南アジアの海産資源やバジャウの生態資源に対する姿勢、ベトナムやインドネシアの森林破壊の歴史、森林認証制度の研究も行い、成果を『生態資源』としてまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究計画の学術的特異点は、ユーラシア大陸と東南アジア海域世界という広大な地域を舞台に、生態資源の動態について研究活動を行った点にある。その成果は『生態資源 モノ、場、ヒトを生かす世界』（山田勇、赤嶺淳、平田昌弘編著、昭和堂）として出版、さらに平田の『ユーラシア乳文化』赤嶺訳の『マツタケ』、長津の『国境を生きる』の三冊が上梓された。

現在撓乱と劣化が進む生態資源に対し、各研究者が現場を通して論じた社会的意義は大きい。現実に比較研究をおこなうとすると、ある程度の実績を持った実力ある研究者が揃うことが必要となる。そういう意味でも画期的な比較研究が出来、社会に与える影響は大きいと思われる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the current state of degradation and conservation of ecological resources from the Southeast Asian maritime world to the Eurasian continent, and to explore future measures. During the 4 years research period, we conducted extensive research on ecological resources, mainly agarwood, tea, cattle breeding, forests, and tourism. The use of each ecological resource was forced to change due to external pressures, yet still maintained a unique approach to strength the peculiarity of the areas, which is not the case in other parts of the world. Research on the marine resources of Southeast Asia and the ecological resources of Bajau, the history of destruction and the forest of Vietnam and Indonesia, and the forest certification system were all compiled in the publication of “Ecological Resources” edited by Yamada, Akamine and Hirata, Showado, 2018.

研究分野：地域研究

キーワード：生態資源 東南アジア海域社会 モンスーン区 ユーラシア大陸 茶 牧畜 沈香 先住民文化

1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とするのはユーラシア大陸内陸部から東南アジア海域世界にまたがる地域の生態資源である。この地域は古くから個別の地域内の研究は多いが、全体の地域の相互比較や生態資源に関する研究はほとんど無いといっている。

代表者山田は、半世紀間これら各地の生態系の調査を行い、「生態資源」という、従来の生物資源ではなく、生態空間との相関関係に着目した概念を創出し、総合的な地域間比較研究により、『東南アジアの熱帯多雨林世界』(1991)、『アジア・アメリカ生態資源紀行』(2000)、『世界の森大図鑑』(2012)などを出版した(これまで二回の生態資源をテーマにした科研を組織、その成果は現在編集中)。

最近の生態資源利用では、中国やロシアなどが周辺の小国に圧力をかけ、EUは市場を守るため、域外の生産を規制する。一方で国際NGOの保全への関与、地域住民によるモラトリアムの実施などもある。本研究では、周辺大国や国家の思惑のもと、いかに地域の人々が生態資源を扱ってきたかを以下の3つの「大地域」内の6つの「生態区」において、特色を精査し、地域間の比較を行い、将来の生態資源のあり方を展望する。

A. 東南アジア海域

この地区はボルネオ、スマトラなどの大島を含む熱帯雨林区と多島海のウォーラセア区である。前者は生物多様性の宝庫であったが、戦後瞬間に攪乱され、画一的な生態系となった。一方でウォーラセアではサシと呼ばれるモラトリアムにより資源の保全を行ってきた。

熱帯雨林区でもっとも激しい攪乱が起こったのが「泥炭湿地林」である。ボルネオ、スマトラに広がる大泥炭湿地林は、1970年代の開発の多くが失敗、2000年代に入りアカシアやオイルパームを造成する急激な開発がはじまった。この地域では古くはポラックやアンダーソン、1980年代から京都大学、IPB、北海道大学、パランカラヤ大学などの研究がある。現在は多国籍企業と地元住民の対立とNGOや研究者の介入により、複雑な様相を呈している。原生林から攪乱、修復を見て来た山田は今後の方向を提示し、塩寺が泥炭湿地林の攪乱履歴を測定する。

また、「沈香」はこの地域でもっとも高価な資源である。山田は30年間この取引を調査しており、引き続き採取状況を調査する。市川は『ボルネオの里の環境学』(2013)につづきダム建設や森林伐採に「地域住民」がいかに対応してきたかを明らかにする。内藤は、川に沿って暮らす地域住民の自然と資源に対する取り組みの変遷をキナバタンガン川で明らかにする。

一方のウォーラセア区においては、鶴見良行の系統をひく赤嶺、長津が20年にわたって研究を続けている。長津はバジャウ人社会を中心とした東南アジアの海民社会の調査を通じ、約100年の時間幅で、「稀少海産資源利用」のあり方、および同資源をめぐるローカル・ネットワークの持続と再編の過程を、中国や拠点都市の市場の変動、また近代国家や国際環境NGOの資源の囲い込み等のインパクトをふまえつつまとめる。

20年にわたり日本・東南アジアでナマコ類利用の実態調査をおこない『ナマコを歩く』(2010)などを著している赤嶺は、国際捕鯨委員会(IWC)や「ワシントン条約会議」(CITES)に参加し、大国が行使するエコポリティクスに参加するとともに、「サメ類」による海洋保護区(MPA)「エコツーリズム」の課題を、食料資源との関係性から調査する。

B. ユーラシア東部域

中国東海岸沿岸区は、中国の周辺の生態資源をめぐる中核地である。山田は香港を中心にした港市間の生態資源取引の役割を論じて来たが、今回は中国にとって最も重要な生態資源の1つである「茶」と「朝鮮人参」に焦点をあてる。武夷山、福建省各地の茶の主産地の動向と共に北の長白山からの朝鮮人参の取引ルートを四川大学の羅二虎教授と調査し、香港の生態資源、公益ネットワークをあきらかにする。

東南アジアモンsoon区について、山田は1990年から、中国西部地区の変容を調査、今回は「漢人ツーリズム」の浸透による地元住民の生活の変化を雲南大学の尹紹亭教授と調査する。小坂はラオスへの南米からの「移入植物」による生態資源の変化にともなう、地元住民の生活戦略の変化をあとづけ、その将来を展望する。ベトナムの「マングローブ」を調査してきた鈴木は、高度成長の影響により、在来利用形態が変容していく動態を明らかにする。

C. ユーラシア西・中部域

中央アジア高地区は、西・北アジアに比べ、渡辺梯三グループの研究のみがある空白地域である。乳文化研究では、梅棹忠夫、谷泰、松原正毅、小長谷有紀らのあと、平田は25年間の成果を『ユーラシア乳文化論』にまとめた。北方と南方乳文化圏が交叉するこの地域は、大陸の乳文化および牧畜を理解するには不可欠である。今ここは、生業の変貌、独立後の経済混乱と牧畜の衰退、高地と低地との上下流域での水問題などの問題が多い。その中で急速に変貌しつつある「牧畜」の実態を詳細に記述し、現代社会と共存しうる方向性をパミール高原を中心に探る。

東欧移牧区においても、大国の政策により伝統的生業の崩壊と生態資源利用の変貌がみられる(吉野和子)。東欧諸国では、国境を跨いだ移牧が困難になり、定住化政策による、国家の規制が牧畜社会にかかるようになり、伝統的な牧畜形態はいったん消滅した。近年EUに加盟した

ブルガリアは、ウシ 10 頭以下は酪農家として認めず、多数の小規模酪農家が崩壊し、乳文化と牧畜（移牧）という無形文化遺産が急速に消失しようとしている。現代社会における「移牧」の意義を再検討し、その伝統文化の保全について方策をブルガリアとルーマニアで探る。

2．研究の目的

本研究は、ユーラシア大陸内陸域からアジア海域にかけての特色ある 6 地域において、生態資源の動態を、外部とのさまざまな相関関係を軸に解析し、持続可能な生態資源利用を展望するものである。

東南アジア海域の豊かな生態資源は、戦後の復興、高度成長の過程で乱獲、画一化された。一方、高山や乾燥地のユーラシア大陸内陸では、持続的に稀少な生態資源を利活用し、さらにウオーラセアの小島群は限られた資源を自主規制し維持してきた。

調査は 3 つの大地域を 6 つの区に分け、各地域で特色のある生態資源の総括的臨地調査を行う。対象となる生態系と生態資源は、泥炭湿地林、沈香、熱帯雨林、茶、牧畜、水産業などの生態資源が、国家の規制、周辺諸国の外圧、エコツーリズムの促進などにより変遷してゆく姿をとらえ、その中で国際条約、国際 NGO、地元 NGO の役割の重要性を明確にする。

3．研究の方法

本研究は、ユーラシア大陸からアジア海域世界における、戦後の生態資源の攪乱を軸に、そのはじまりから攪乱の実態、そして攪乱後の修復から保全への動きを、現地調査によって明らかにする。地域は 3 つの大地域を 6 つの「区」に分け、各地域で特色のある生態資源の総括的臨地調査をおこなう。対象となる生態系と生態資源は、「泥炭湿地林」、「沈香」、「熱帯雨林」、「板鰓類」、「茶」、「朝鮮人参」、「移入植物」、「小型林産物」、「水資源」、「牧畜」など、生物多様性の危機的状況にあるものをとらえる。これらの生態資源が、国家の規制、周辺諸国の外圧、エコツーリズムの促進などにより、変遷してゆく姿をとらえ、その中で国際条約、国際 NGO、地元 NGO の役割の重要性を明らかにし、地域と外部との関係性のなかで、今後の生態資源保全のあり方を提言する。

4．研究成果

今回の研究では東南アジア海域世界からユーラシア大陸にかけての生態資源の劣化と保全についての現状を把握し、今後の方策を模索することであった。

代表者は、2016 年度はルーマニア、ミャンマー、インドネシア、ブータン、中国武夷山、2017 年度はインドネシア、スロベニア、クロアチア、2018 年度はインドネシア、中国、バングラデシュ、ブルガリア、旧ユーゴスラビア、2019 年度はスイス、オーストラリア、ベルギー、インドネシア、中国を調査し、それぞれに各地の生態資源、主として沈香、茶、牧畜、森林、観光資源について広域な調査を行った。中国では伝統的な生業にさらに政府の後押しなどにより、国大な菜園が広がり、地域を支えていた。インドネシアの沈香は、困難な状況下にはあるが、高値をつけることにより、しぶとく取引をされている。中・東欧の森林は西欧に比べ、原生林は残存率が高く、地元の経済を支えている。牧畜に関しては、EU の圧力により、伝統的な牧畜形態を変更せざるを得ない状況が見られ、特に旧ユーゴスラビアでの戦乱の中から新たな方向を目指す努力がみられた。観光産業をもりたてるため、地元が協力して各地から観光客を誘致する努力をおこなっていた。

4 年間の調査で得られたことは、それぞれの地域で長く培われてきた生態資源の利用が外圧によって変化を余儀なくされつつも、なおかつ、独自の報告を堅持していこうという姿勢が見られ、そのことが他地域にはみられない特殊性を強固にしていくいい方向に向いているという現実であった。

分担者からの報告は以下のようであった。

平田の報告によると、ユーラシア大陸内陸高地区から東欧移牧区域における生態資源利用について、ロシア・欧州連合という大国の政治経済的圧力との関連性に着目しながら、その特徴と変貌について体系的に調査研究した。これらの地域では、「乾燥」「山岳地帯」という要因により牧畜が生業の中心となってきたことから、乳文化を生業動態把握のための定規として用いて分析をおこなった。

ユーラシア大陸内陸高地区では、パミール高原にて現地調査を行なった。パミール高原の乳文化の特徴は、北方域や南方域と重層的に関連しながら発達してきたことにあった。乳文化の視座から、パミール高原はまさに生業が行き交う十字路に位置することが明らかとなった。2000 年頃からロシア製のクリームセパレーターがパミール高原に広く普及し始め、それまで長きにわ

たってパミール高原地域に育まれてきた乳加工体系は大きく変化していた。近年の変貌の特徴は、激しく急速に進むことにある。パミール高原の乳文化は、ユーラシア大陸における十字路的位置にあり、ユーラシア大陸における乳文化・牧畜の伝播と変遷の論考においては、不可欠な情報を提供する地域である。パミール高原地域における牧畜を中心とした多くの乳文化が失われる前に、ぜひとも記録に留めておくべき必要がある。これは、人類の文化遺産の保全でもあり、人類史の記録の保存でもある。

東欧移牧区域では、ブルガリアを中心にバルカン半島を広域に調査した。ロシアによる共産主義化、大国による国境制定、EU 経済圏への加入により、移牧民の定住化や乳加工技術の消失がバルカン半島全域で確実に急速に進行し、牧畜文化の多くが失われつつある危機的状況にあった。バルカン諸国は、牧畜を生業基盤としてきた自国の伝統的文化を保全するために、政府・生産者・消費者の合意のもと、独自の基準を早急に設定していく必要があると考えられた。制度と関係する人びとによって成り立っているという構造面、制度と関係する人びととが関係しているという機能面とが一体となったシステムが実動した時、地域の文化は地域の人びとによって守られていくと、東欧移牧区域における生態資源の動態分析から提言することができる。

市川の報告によると、山村での人口減少・高齢化は、日本ばかりでなく、マレーシアにおいてもみられつつある。本研究では、高知県とマレーシア・サラワク州・ミリ省の山村にみられる人口減少・高齢化の背景と、それにより引き起こされる問題について検討してきた。人口減少・高齢化が引き起こされたおもな要因は、山村から都市への若い世代を中心とする住民の移動である。都市での現金収入のよい仕事と、教育の機会を求めて移動する。両地域に共通性の高い問題として、住民が山村を離れることにより、その生態系を持続的に利用して生活する技術や知識、それらを含む生活様式が失われていくことがあげられる。地域で育みたいわゆる文化が失われていく。より広域的にみれば文化多様性の喪失という問題となる。一方、山村から都市へ出た人々は、他地域で生産された商品を消費して暮らすことになる。商品の生産地となった地域では、たとえばサラワク州のアブラヤシプランテーション造成にみられるように、その生態系が大きく改変させられる。都市で商品を消費する人々は、自らの出身の山村の場合と異なり、他地域の生態系を持続的利用には関知しない。人々は元来、自らが暮らす地域の生態系の中で生活してきた。山村の人口減少・高齢化によって、その生態系の中で育まれてきた文化は失われ、都市に出た人々は他地域の生態系に依存した生活をするようになる。グローバル課題としての山村の人口減少・高齢化が引き起こす問題とは、人々が生態系と関わる文化を失い、他地域の生態系と文化を有さずに関わるようになることと考えられる。

長津は 2019 年度、6 月、7 月に宮城県気仙沼市において、元シンガポール国立大学准教授のゴー・ベン・ラン氏、インドネシア国立ハルオレオ大学のベニー・パスカラとともに気仙沼を訪問。気仙沼市唐桑東舞根や陸前高田市を訪問、東日本大震災後の沿岸環境の変化を観察した。同時に、気仙沼市内のインドネシア人技能実習生の職場・アパートなどを訪問。水産業を基盤とする同市の多文化共生に関する調査をおこなった。9 月には、ドイツのハーメルン、ハンブルグ、リュベックを訪問し、市の遺跡やハンザ同盟博物館等で、ハンザ同盟（12～17 世紀）を基盤とするバルト海域の盛衰に関する調査をおこなった。北ドイツ地域は、14 世紀に最盛期を迎えるハンザ同盟のもと、12～17 世紀まで地域を越えた広域バルト海域の一部を構成していた。しかし近代以降の農業拡大・工業化の過程で、海域的性格は徐々に失われた。訪問した 3 都市は、かつての海域商業都市の痕跡を（再建も含めて）よく残しているが、それぞれの町に東南アジアにみられるような海域的性格（ディアスポラ性や混濁性）があるようには思われなかった。この知見は逆に、東南アジア（島嶼部）において、海域世界がいかに長期にわたりその持続性を有し、その海域性を基盤として社会が維持・再生産されてきたのかを理解することに結びついた。

赤嶺は 2019 年度、『マツタケ』の現著者 Anna Tsing 氏（カリフォルニア大学サンタクルス校人類学教授）と長野県で開催された IWEMM10（The 10th International Workshop on Edible Mycorrhizal Mushrooms = 第 10 回食用菌根性きのこに関する国際ワークショップ）に参加し、上記 V8 の研究発表をおこなうとともに、長野県の伊那地方でマツタケと里地の調査を実施した。また、Tsing 教授と上記 V9 のワークショップを開催し、プランテーション研究の可能性について討議した。

飯塚の報告では、フィリピンルソン島イフガオ州は、見事な棚田が世界遺産である地域だが、近年は耕作放棄地も目立ち、棚田の維持が課題となっている。ラガウエ、キアンガン、ティノック、フンドゥアン、バナウエ、マヨヤオの 8 つの国立高校の高校生が、それぞれの地域の儀礼や踊りに結びついた農業について、地域の大人に聞き取りを行いモノローグの演劇に仕立て交流を行った演劇ワークショップのプロセスを調査した。劇を創作し演じることにより、現状を相対

化し、課題を共有する手法は社会劇として様々な場所で行われているが、現地の高校生らは、先住民文化の復興を戦略的にカリキュラムに組み込む教育方針のなかで、仲間とパフォーマンスを創り上げること自体の喜びとともに、最大の関心は助成団体のある日本との関わりを掴むことに向かっていた。イフガオの高校生の中に共存する伝統と現代化が、如何に彼らのなかで価値を生み出していくか、外部者との相互行為が重要であると思われた。その後、棚田の維持が同様に課題となっている長野県上田市の市民劇場において、演劇ワークショップを主導したイフガオ州のファシリテーターらがイフガオの棚田をめぐる伝統や課題に関する演劇を通して、上田市民と交流を行った。上田市民から大きな評価を得ると共に、彼ら自身の文化や環境への認識や誇りが深化する様子が認められた。ここでも演劇を通じた地域を超えた相互行為が、棚田という地域生態資源の価値を再確認するプロセスとして明確に機能していた。

内藤は、マレーシア、サバ州キナバタンガン川中流域にて、世帯調査、インタビューを行い、生業変容について調査を実施した。村は古くから植えられてきたドリアン林の下層にカカオを植栽し、アグロフォレストリーを実践していたが、マーケットへのアクセスが悪く、価格が低いことが問題となっており、多くの村人はアブラヤシ園での仕事や村外への移住が増えていた。かつてはツバメの巣が取れた地域であったが、管理が悪く収量がへってきており、またツバメの巣ハウスが立てる世帯が増えてきていた。

鈴木は、まず仏領インドシナの公文書を用いた林政と森林局に関する調査を行った。1901年にインドシナに設立された森林局の設置経緯と、インドシナ林政の内実に関してフランス国立公文書館の史料を用いて分析した。この中で、森林局の設置は雲南鉄道建設に使用される枕木の不足を痛感したインドシナ総督(ポール・ドゥメール)のイニシアティブによるものであることが判明した。

次に、仏領期の公文書を用いた旧バクリウ省(現カマウ省)におけるマングローブ開発に関する調査を行った。1930年代に本格化する旧バクリウ省(現カマウ省)のマングローブ開発の内実と、開発の経緯についてフランス国立公文書館史料とベトナム語史料、現地調査から明らかにした。この調査では、1930年代の本国フランスのエネルギー政策の転換、具体的には木炭ガス鉄道や木炭ガス自動車の開発が進められ、これと連動する形でマングローブ木炭が注目されたことが明らかになった。

さらに、メコンデルタの交易圏の歴史と現在についての調査を行った。1700年代末のグエン朝の史料と1890年代の仏領行政官報告を用いて中国 シャム間の交易航路を精査し、史料に記載されたメコンデルタの寄港地をめぐる臨地調査を実施した。この中で、歴史史料に掲載されている寄港地では概ね迎鯨祭が行われていることが判明した。なお、ベトナムの鯨信仰と交易の関係性を指摘した研究はまったく存在しない。

以上のような研究成果は編著本『生態資源 モノ、場、人を生かす世界』にまとめられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計45件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 山田勇	4. 巻 -
2. 論文標題 生態資源を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田勇	4. 巻 -
2. 論文標題 沈香の森をめぐる人びと - 東カリマタン二〇〇七年の記録	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 85-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 「ナマコの知」をもとめて 東アジアにおけるナマコ世界の多様性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 19-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 瓦解を生きる術 - マツタケに学ぶ柔軟さ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品・食品添加物研究誌 FFI ジャーナル	6. 最初と最後の頁 259-267
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 ふたつの塩くじら	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1239-1241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 9
2. 論文標題 関係外部者を受け入れる地域の体制の形成: 高知県大豊町東豊永地区での経験から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Collaboration	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 -
2. 論文標題 マレーシア・サラワク州ミリ省の村々で進む人口減少とその背景	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 土地所有権の空洞化	6. 最初と最後の頁 252-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広、松本美香	4. 巻 -
2. 論文標題 山村を未来へ継ぐ 高知県大豊町の過去と未来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 231-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木伸二	4. 巻 -
2. 論文標題 森林消失の比較政治学 熱帯アジアの違法伐採と森林の未来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源—モノ、場、ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 143-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木伸二	4. 巻 -
2. 論文標題 中世の開発フロンティア・葛川の民族誌	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民俗文化	6. 最初と最後の頁 73-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata	4. 巻 67(3)
2. 論文標題 Milk Processing System in Rwanda	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Milk Science	6. 最初と最後の頁 175-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.11465/milk.67.175	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata , Junko Kimura, Takaho Ueda and Tanja Barattin	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 Milk Processing System in Barbasia of Sardinia (Italy) located in Mediterranean Area	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Milk Science	6. 最初と最後の頁 65-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.11465/milk.67.65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata, Ryunosuke Ogawa, Birhane Gebreanenia Gebremedhin, and Koichi Takenaka	4. 巻 -
2. 論文標題 The recent decrease in the number of livestock and its cause for the agri-pastoralists in the Ethiopian highland- From the cases in southern Kilite Awlaelo district in eastern Tigray region	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Arid Land Studies	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.14976/jals.28.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 -
2. 論文標題 生乳と乳製品、肉、麦類で厳寒の冬を生き抜く - ヤクと生きる、チベット牧畜民の食生活	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 デーリイマン	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 -
2. 論文標題 ユーラシア乾燥地帯での牧畜民にとっての生態資源とその変貌 乳加工技術を中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 - モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 205-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 -
2. 論文標題 生態環境が育む北アジア牧畜の特徴 西アジア牧畜との対比から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 寒冷アジアの文化生態史	6. 最初と最後の頁 92-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長津一史	4. 巻 -
2. 論文標題 ひと・海・資源のダイナミクス - 東南アジア海域世界におけるバジャウ人と商業性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 - モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 55-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Isamu	4. 巻 11(1&2)
2. 論文標題 Comparative eco-resource utilization studies in Asia: Poor management in rich areas and wise use in poor resource areas	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田勇	4. 巻 -
2. 論文標題 生態資源を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田勇	4. 巻 -
2. 論文標題 沈香の森をめぐる人びと 東カリマンタン二〇〇七年の記録	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 85-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘、Mihaela Persu, Dan Balteanu、山田勇	4. 巻 66(1)
2. 論文標題 ルーマニア・南カルパチア山脈における乳加工体系	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Milk Science	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirata Masahiro, Honda Akemi	4. 巻 5
2. 論文標題 Milk Processing System in the Hilly Terrain of Central Nepal	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Advances in Dairy Research	6. 最初と最後の頁 198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4172/2329-888X.1000198	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata, Shunji Oniki, Masaru Kagatsume, Melaku Berhe	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 Dietary intake of Afar pastoralist in the lower highland of northern Ethiopia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Arid Land Studies	6. 最初と最後の頁 75-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 82(2)
2. 論文標題 非搾乳論考：搾乳には進まなかったリヤマ・アルパカ牧畜民と家畜との関係性 アンデス高地ワイリャワイリャ共同体のE牧民世帯の事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 131-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 87(10)
2. 論文標題 ミルクが結ぶシルクロード：日本への道	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 966-967
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 -
2. 論文標題 牧畜民にとっての生態資源とその変貌 パルカン半島ブルガリアでの乳加工技術を中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 205-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 28
2. 論文標題 キノコに学ぶサバイバル術-不確実な時代を生きる	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 バイオストーリー	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 「ナマコの知」をもとめて 東アジアにおけるナマコ世界の多様性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 19-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長津一史	4. 巻 -
2. 論文標題 ひと・海・資源のダイナミクス 東南アジア海域世界におけるバジャウ人と商業性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 55-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagatsu, Kazufumi	4. 巻 95
2. 論文標題 Maritime Diaspora and Creolization: Genealogy of the Sama-Bajau in Insular Southeast Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 35-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広・松本美香	4. 巻 -
2. 論文標題 山村を未来へ継ぐ 高知県大豊町の過去と未来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 231-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ichikawa, Masahiro	4. 巻 9
2. 論文標題 Rural to urban migration of an Iban family: Comparison with Japanese experience	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ngitgit	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤大輔	4. 巻 -
2. 論文標題 持続可能な木材調達をめぐるポリティクス 森林認証制度と2020東京オリンピック	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木伸二	4. 巻 -
2. 論文標題 森林消失の比較政治学 熱帯アジアの違法伐採と森林の未来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	6. 最初と最後の頁 143-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata, Isamu Yamada, Kenji Uchida and Hidemasa Motoshima	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 The characteristics of milk processing system in Kyrgyz Republic and its historical development	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Milk Science	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11465/milk.65.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 65(6)
2. 論文標題 食事の重要な食材として浸透するチーズ 非乳文化圏・南米ペルーの乳加工と乳製品	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 デーリイマン	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 61(11)
2. 論文標題 ヨーロッパの熟成チーズの源流をルーマニアに訪ねて 山岳地帯の移牧民が育んできた食の文化	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 デーリイマン	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Alim Setiawan Slamet, Akira Nakayasu, Masahiro Ichikawa	4. 巻 7
2. 論文標題 Small Vegetable-Farmers' Participation on Modern Retail Market Channels in Indonesia: the Determinants and the Impacts on Their Income.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Agriculture (MDPI)	6. 最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 1
2. 論文標題 終焉なきフロンティアとしての漁業	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東南アジア地域研究入門, 山本信人監修, 井上真編, 慶応大学出版会	6. 最初と最後の頁 133-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jun Akamine	4. 巻 -
2. 論文標題 Urban Foodways and Communication: Ethnographic Studies in Intangible Cultural Food Heritages around the World, Lanham: Rowman and Littlefield	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Shark Town: Kesenuma's Taste for Shark and the Challenge of a Tsunami, Lum, Casey Man Kong and Marc de Ferriere le Vayer eds. Rowman and Littlefield	6. 最初と最後の頁 71-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 ナマコとともに モノ研究とヒト研究の共鳴をめざして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人間の営みを探る, 秋道智彌・赤坂憲雄編, 玉川大学出版部	6. 最初と最後の頁 114-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 ケーススタディ・ナマコ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 魚たちとワシントン条約 マグロ・サメからナマコ・深海サンゴまで, 中野秀樹・高橋紀夫編, 文一総合出版	6. 最初と最後の頁 187-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長津一史	4. 巻 -
2. 論文標題 海民の社会空間 東南アジアにみる混淆と共生のかたち	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 小さな民のグローバル学 共生の思想と実践をもとめて』甲斐田万智子・佐竹真明・長津一史・幡谷則子(編), 上智大学出版会	6. 最初と最後の頁 280-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagatsu, Kazufumi	4. 巻 -
2. 論文標題 Maritime Diaspora and Creolization: A Genealogy of the Sama-Bajau in Insular Southeast Asia	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長津一史	4. 巻 -
2. 論文標題 境域	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東南アジア地域研究 政治, 山本信人(編), 慶應義塾大学出版会	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計35件(うち招待講演 5件/うち国際学会 22件)

1. 発表者名 Isamu Yamada
2. 発表標題 Landscapes of Pastoralism in Balkans: Conserving natural and cultural tradition for next generation
3. 学会等名 International Conference of Pastoralism: Traditions and Modernity -Anthropological, Ecological and Social Aspects (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akamine Jun
2. 発表標題 Inheriting Sea Cucumber and Shark Fin Foodways in the Age of Environmentalism
3. 学会等名 SYSU Second International Conference on Food and Culture: People, Ecology and Food (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akamine Jun
2. 発表標題 Multiplicities of Japanese Whaling: A Case Study of Baird's Beaked Whaling and its Foodways in Kanto and Tohoku regions
3. 学会等名 Across Cultures and Species: New Histories of Pacific Whaling (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 高度経済成長期の食生活の変化を聞き書く 食生活誌学のこころみ
3. 学会等名 日本オーラルヒストリー学会第16回大会記念シンポジウム「食に聴く・食を書く 食の媒介者たちをめぐる歴史と社会」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 Minke Whale Meat Supply Chain in Contemporary Norway
3. 学会等名 Whaling Activities and Issues in the Contemporary World (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯塚直子、大石高典
2. 発表標題 カメルーンのパカ・ピグミーにおける在来知識と学校教育：ローカルNGOとの対話から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 牧畜・乳文化から日本中山間地の活性化を考える
3. 学会等名 日本学術会議食料科学委員会畜産分科会・日本草地学会共催公開シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masahiro Hirata
2. 発表標題 Characteristics of Milk Culture in Bulgaria from the World's milk cultural perspective
3. 学会等名 International Conference of Pastoralism: Traditions and Modernity -Anthropological, Ecological and Social Aspects (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamada Isamu
2. 発表標題 Eco Links for the Conservation of Important Eco Resources in Indonesia
3. 学会等名 BILATERAL SYMPOSIUM, "Technology the rules of Mathematics and Sciences for Sustainable Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akamine Jun
2. 発表標題 Call for Responsible Consumption of Sea Cucumbers for Conserving Cultural Heritage in Asia
3. 学会等名 Chinese Overseas: Global and Local Dynamics" the 11th Regional Conference of the International Society for the Study of Overseas Chinese (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagatsu, Kazufumi
2. 発表標題 Maritime Movements and Ethic Reformation of the Bajau in Indonesian Maritime World
3. 学会等名 International Science Conference on Bajo Society. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagatsu, Kazufum
2. 発表標題 Islamization Compared: Processes of Becoming “Pious Bajau” in Malaysia and Indonesia
3. 学会等名 Asian Research Institute Cluster Seminar: Religionization at Margins in Insular Southeast Asia: Introducing Recent Southeast Asian Studies in Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iizuka Noriko
2. 発表標題 Land based Wisdom and Education: Usage of Medical Plant by Tlingit First Nation in Canada
3. 学会等名 BILATERAL SYMPOSIUM, "Technology the rules of Mathematics and Sciences for Sustainable Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Isamu Yamada
2. 発表標題 Comparative studies of Kitayama forestry area in Japan and tropical peat swamp forest area in Indonesia:Traditional way of forest management by local basis and disturbance by globalization
3. 学会等名 Myanmar Way of Agriculture and Rural Development(MWARD): Considering the approach of GNH (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Isamu Yamada
2. 発表標題 Comparative area studies of high mountainous areas and lowland tropical areas in Asia:Poor resources with good management in Ladakh and rich resources with poor management in tropical Southeast Asia
3. 学会等名 International Workshop on Role of University in Promoting of GNH in Practice and Sustainable Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shoko Sakai, Choy Yee Keong, Keiko Kishimoto-Yamada, Kohei Takano, Masahiro Ichikawa, Hiromitsu Samejima, Yumi Kato, Ryoji Soda, Masayuki Ushio, Izuru Saizen, Tohru Nakashizuka, Takao Itioka
2. 発表標題 URBANIZATION, POPULATION CHANGE AND FOREST COVER IN RURAL BORNEO.
3. 学会等名 日本生態学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市川昌広
2. 発表標題 マレーシア・サラワク州パラム川流域村落における空戸の増加と人口移動の要因
3. 学会等名 第26回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 ナマコと鯨、バナナとヤシから見いだせそうなこと 海域世界研究の我流的展望
3. 学会等名 第9回東南アジアの海とひと研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 高度経済成長と鯨食 - 見えざる鯨食の可視化をめぐる2つの物語
3. 学会等名 第10回食文化論基盤整備研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Beyond the “ Super Shark ” Myth: Promoting Sustainable Shark Foodways in Japan and Asia
3. 学会等名 Exchange and Dynamism of Food Culture in Asia: Past, Present and Future, The 6th Conference on Foodways in Asia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Promoting Sustainable Shark Foodways in Japan against Global anti-Shark Fin Campaign
3. 学会等名 Food & Society 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 気仙沼におけるサメ産業の復興 - 反フカヒレ運動下におけるサメ食文化促進
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアの食文化交流」(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Matsutake in Japan: Foodways and Economy
3. 学会等名 LUKE (Luonnonvarakeskus=Natural Resources Institute Finland) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 日本の「捕鯨問題」の分析視角 - ノルウェーの事例を参考に
3. 学会等名 2016年度アイスランド学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 フロンティア論再考 - 東南アジア研究とグローバル・スタディーズの接合をめざして（「知命」をむかえるにあたって……）
3. 学会等名 第8回東南アジアの海とひと研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 赤嶺淳
2. 発表標題 ベトナムコスの遺産 - 鶴見アジア学の今日的意義と課題
3. 学会等名 第26回応答の人類学研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 The Role of Samas/Bajaus in Sea Cucumber Trades in the Sulu Sultanate Economy: Towards a Reconstruction of Dynamic Maritime History in Southeast Asia
3. 学会等名 International Conference on Bajau-Sama ' Diaspora & Maritime Southeast Asian Cultures (ICONBAS-MASEC 2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 アムド系チベット牧畜民のミルクの世界
3. 学会等名 国際シンポジウム「チベット牧畜民の「今」を記録する」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 ユーラシア大陸における乳文化の発展の歴史
3. 学会等名 全道農業関連部会交流会 in くしろ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 非乳利用論考：乳利用には進まなかったリヤマ・アルパカ牧畜民と家畜との関係性 ペルー南部のクスコ県ワイリャワイリャ共同体のE牧民世帯の事例から
3. 学会等名 北海道民族学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masahiro Hirata
2. 発表標題 Flexibility of milk processing in Amdo Tibetan pastoralist
3. 学会等名 14th Seminar of International Association for Tibetan Studies (IATS) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 乾燥地の発酵文化
3. 学会等名 民族自然誌研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazufumi Nagatsu
2. 発表標題 Bajau as Maritime Creoles: Dynamic of the Ethnogenesis in Southeast Asian Maritime World
3. 学会等名 The 6th International Symposium of Jurnal Antropologi Indonesia. Depok: University of Indonesia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 長津一史
2. 発表標題 東南アジア海民論と二つの比較 地域研究的越境の試みとして
3. 学会等名 第95回東南アジア学会研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Daisuke Naito
2. 発表標題 Timber legality and forest sustainability in Malaysia
3. 学会等名 IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 山田勇、赤嶺淳、平田昌弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	

1. 著者名 長津一史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 木犀社	5. 総ページ数 481
3. 書名 国境を生きる- マレーシア・サバ州、海サマの動態的民族誌	

1. 著者名 山田勇、赤嶺淳、平田昌弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 296
3. 書名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	

1. 著者名 小野林太郎、長津一史、印東道子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 400
3. 書名 海民の移動誌	

1. 著者名 赤嶺淳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 284
3. 書名 鯨を生きる 鯨人の個人史・鯨食の同時代史	

1. 著者名 平田昌弘	4. 発行年 2017年
2. 出版社 デーリィマン社	5. 総ページ数 116
3. 書名 デーリィマンのご馳走	

1. 著者名 平田昌弘	4. 発行年 2016年
2. 出版社 2015年5月16日・17日公開シンポジウム事務局	5. 総ページ数 254
3. 書名 公開シンポジウムの記録 家畜化と乳利用その地域的特質をふまえて - 搾乳の開始をめぐる谷飯説を手がかりにして -	

1. 著者名 甲斐田万智子・佐竹真明・長津一史・幡谷則子(編)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 上智大学出版会	5. 総ページ数 390
3. 書名 小さな民のグローバル学 共生の思想と実践をもとめて	

1. 著者名 大元鈴子、内藤大輔、佐藤哲（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京大学出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 国際資源管理認証制度	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤嶺 淳 (Akamine Jun) (90336701)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	長津 一史 (Nagatsu Kazufumi) (20324676)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	
研究分担者	平田 昌弘 (Hirata Masahiro) (30396337)	帯広畜産大学・畜産学部・教授 (10105)	
研究分担者	市川 昌広 (Ichikawa Masahiro) (80390706)	高知大学・教育研究部自然科学系農学部・教授 (16401)	
研究分担者	鈴木 伸二 (Suzuki Shinji) (10423013)	近畿大学・総合社会学部・准教授 (34419)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内藤 大輔 (Naito Daisuke) (30616016)	京都大学・農学研究科・助教 (14301)	
研究分担者	飯塚 宜子 (Iizuka Noriko) (60792752)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携研究員 (14301)	
研究分担者	塩寺 さとみ (Shiodera Satomi) (60621117)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携助教 (14301)	
研究分担者	小坂 康之 (Kosaka Yasuhiro) (70444487)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 (14301)	